

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宇部フロンティア大学
設置者名	学校法人 香川学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
心理	心理	夜・通信	0	8	23	31	13	
看護	看護	夜・通信		4	114	118	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/student/g-syllabus-student/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宇部フロンティア大学
設置者名	学校法人 香川学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人香川学園ウェブサイトにて公開 https://www.kagawa.ac/k_jyoho.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	団体職員	令和 7 年 6 月 13 日から 令和 11 年 4 月以降に開 催される定 時評議員会 終結の時ま で	外部理事には、学園 全体の運営体制に 対して多様な視点 からの確認や意見 を求め、これらを積 極的に取り入れ、融 合することにより、 多様な教育研究環 境の実現に資する ことを期待する。
非常勤	行政機関職員	令和 7 年 6 月 13 日から 令和 11 年 4 月以降に開 催される定 時評議員会 終結の時ま で	
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宇部フロンティア大学
設置者名	学校法人 香川学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 11月下旬までに次年度開講科目、科目担当者を確定し、12月からシラバス作成要領に基づき各教員(非常勤講師を含む)が作成を開始する。2月中に各学科で点検(校正)作業を行い、不備があれば、3月中旬までに修正し、3月下旬にはホームページに掲載し公開している。学生には年度初めのオリエンテーション時にシラバスを確認して履修登録をするように指導している。 シラバスには、「授業形態・履修形態・単位数・開講期」、「授業概要」、「到達目標(ナンバリング)」、「成績評価方法及び評価基準」、「授業計画と概要」、「予習・復習内容」、「アクティブラーニング」、「授業外学習の指示」等を記載している。	
授業計画書の公表方法	本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/student/g-syllabus-student/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学では、授業科目の履修、成績評価及び単位認定について、規程に必要な事項を定めている。 規程には、履修登録、試験の方法、定期試験、試験の受験資格・受験資格の失効、成績評価の基準、単位認定、追試験、再試験、不正行為等について定めている。また、学則に単位の授与、履修の認定を定め、厳正かつ適正に実施している。 単位認定のための評価方法、成績評価に対する評価基準、受験資格、成績通知方法等は、入学時に学生に配布する「キャンパスガイド」及びシラバスに記載し、学生に周知している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では、成績評価に加え GPA 制度を導入しており、GPA 制度は運用規定を制定し、学生の学習成果の達成意欲を高めるとともに、学習支援等の目的に実施している。 GPA については、認定科目・未履修科目・履修中の科目を除外して、次の計算式で算出し、学部、学年ごとの GPA 分布図を作成している。 $\text{GPA} = \frac{4 \times \text{秀の単位数合計} + 3 \times \text{優の単位数合計} + 2 \times \text{良の単位数合計} + 1 \times \text{可の単位数合計}}{\text{成績が秀・優・良・可・不可科目の単位数合計}}$ また、学生には「キャンパスガイド」で周知し、ホームページにも掲載し、各オリエンテーション時のチューター面談等において、学生個別の GPA を利用して学修指導を実施している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/student/g-result/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定方針 本学の卒業認定・学位授与の方針は、「大学全体のディプロマ・ポリシー」と「学部のディプロマ・ポリシー」にて「人への関心と学問の理解」「柔軟な思考と表現力」「未知の領域に挑む意欲」「知識の応用力と判断力」「地域に貢献する積極的態度」の 5 領域を明示し、「キャンパスガイド」及びホームページにも掲載している。 カリキュラムマップ 学生には、入学時に配布する「キャンパスガイド」に、ディプロマ・ポリシーと各科目の関係を示したカリキュラムマップを掲載し、周知している。また、カリキュラムマップを教員にも周知しており、自身の授業について学生に身に付けさせる能力を意識できるようにしている。 卒業判定 卒業の判定は、4 年生後期の定期試験終了後、科目の成績が出た後に、卒業判定教授会で行っている。留年生の場合、前期の定期試験終了後に行う場合がある。卒業判定教授会において、4 年生一人ひとりの科目群ごとの修得単位数及び修得単位数の合計が記載された資料を基に、卒業要件を満たしているかどうか判定するとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力が身についているかどうか確認する。卒業判定教授会の議を経て、学長が卒業を認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本学ウェブサイト https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/ 刊行物：キャンパスガイド（入学時配布）

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宇部フロンティア大学
設置者名	学校法人 香川学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kagawa.ac/k_zaimu.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kagawa.ac/k_zaimu.html
財産目録	https://www.kagawa.ac/k_zaimu.html
事業報告書	https://www.kagawa.ac/k_zaimu.html
監事による監査報告(書)	https://www.kagawa.ac/k_zaimu.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和7年度事業計画 対象年度:令和7年度)
公表方法:香川学園ウェブサイト https://www.kagawa.ac/k_zaimu.html
中長期計画(名称:学校法人香川学園中期計画 対象年度:令和7年~令和11年度)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-public-info/a-info-education

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:公表方法:本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/jiheee/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 心理学部心理学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/ ）
（概要）（心理学部） 人々のニーズに応じた心理的实践を医療、福祉、教育、司法、産業などの現場で展開できる幅広い教養及び高度な専門的知識・技術、判断力をもつ人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/ ）
（概要） 心理学部心理学科では、建学の精神である「人間性の涵養と実学の重視」を教育の基本理念とし、卒業に必要な単位数 124 単位を修得し、以下に掲げる能力を身に付けた学生に、学位を授与します。 （1）カウンセリングマインドと実践的理解の深化 様々な生活課題を抱えている人々および世界の人々に肯定的な関心を持ち、社会活動等を通じ、学問を深めることができる。 （2）豊かな教養を拠り所としたアサーティブな自己表現 幅広い教養力で柔軟にものごとを考え、自分の考えも主張できる。 （3）変化を受け入れ主体的に取り組む態度 地域社会や心理の現場において、新たな変化に怯まず、意欲的に対応することができる。 （4）心理学的知見に基づいた多面的な問題解決力 心理学やその他の幅広い分野で得た知識を基に、コミュニケーション能力やスキルを発揮して、地域社会や心理の現場で問題解決に努める。 （5）心理学を活用した地域社会における多様な協働力 心理学を活用して人々の笑顔につながるサービスを提供する、心理の専門家や職業人として地域社会で活躍する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/ ）
（概要） 心理学部心理学科のカリキュラムは、心理学とその他の幅広い分野について学ぶことにより、複雑化した社会で課題解決ができる能力を身に付けることができるよう編成しています。同時に、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、教育課程において以下のことを実施します。 （1）教育課程の編成 ・教育課程は「基礎・教養科目」および「専門科目」からカリキュラムを構築しています。「基礎・教養科目」は入門、情報処理および語学からなる「基礎科目」、社会の理解、自然の理解、人間の理解からなる「教養科目」及び「コミュニケーション科目」と「キャリア科目」からなっており、それぞれから卒業に必要な単位を修得します。ここでは高校から大学への接続を円滑にしながら諸科学への興味関心と理解を深めると同時に、心理学の基礎的思考方法を習得してコミュニケーション能力を育成することで、柔軟な思考と表現力を高めていけるよう支援する。また、地域に貢献する積極的な態度を育成するため、キャリア形成に関する科目や地域における実習を含む科目を 1 年次から 4 年次までの継続性のある教科目として配置しています。 ・初年次教育を重視し、「基礎・教養科目」・「基礎科目」・入門に、1 年生の必修科目として「心理学基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」を開講し、年間を通じて学習方法や、グル

ープワークで自分の考えを主張する能力の修得を目指します。 ・心理学の専門科目を「基礎心理学科目」、「応用心理学科目」、「心理学展開科目」及び「ゼミナール・卒業研究」に分け、学修する内容の順序性、関係性を踏まえて基礎から応用まで様々な側面から心理学を学べるよう教科目を配置しています。各教科目では、主体的に学び、考え、様々な状況に対応できる力を身につけられるよう主体的な学びを推進します。「ゼミナール」において、多様な学生の進路希望に対応する履修モデルを提示して学部教育を進めます。 ・「心理学展開科目」の「公認心理師関係」科目の履修と「公認心理師関係」のゼミナールを通して、心理カウンセラーとなって臨床心理学の知見を地域の人々の健康の増進や安心のために活かすことができるスペシャリストを養成します。 ・「心理学展開科目」の「ビジネス心理関係」科目の履修と「ビジネス心理関係」のゼミナールを通して、ビジネス場面の一般業務の中で心理学やコミュニケーション力を活かしていくことができるゼネラリストを養成します。 ・「基礎心理学科目」、「応用心理学科目」、「心理学展開科目」の科目を幅広く履修し、心理学研究総合演習と専門のゼミナールで関心あるテーマに取り組むことで、問題発見や解決のスキルを高めるとともに、それらを活用できる力を育成します。 ・「ゼミナール・卒業研究」は、未知の領域に挑む意欲と探求心を育成します。 (2) 学修方法・学修過程 ・学習時間を確保するため、年間の履修登録単位数の上限を 48 単位と定める。また成績が優秀な学生には、追加での履修登録を認めます。 ・全学的に、アクティブラーニングによる授業に取り組む。これにより、学生に能動的な学習の仕方を身に付けさせます。 (3) 成績・学修成果の評価 ・各科目の評価は、「定期試験（中間・期末）」「小テスト・授業内レポート」「宿題・授業外レポート」「授業態度」「プレゼンテーション」「グループワーク」「演習」「実習」の 8 つの評価項目のうち複数組み合わせ、100 点満点で総合評価します。 ・GPA (Grade Point Average) に基づいてゼミナール担当教員が学生に対して学修に関する相談を実施しています。特に公認心理師資格試験にかかわる必修科目「心理実習」履修時には GPA を参考資料として重視します。 ・4 年生の「卒業研究」において、心理学についての総合的な知識・技術の確認・評価を行います。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/）
(概要) 心理学部心理学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す内容を達成するために、以下に示す学生像を求め、入試選抜・入学前教育を実施します。 (1) 求める学生像 ・心理学を通して人間に対する強い関心を持ち、実践活動を通じて学術を極めることができる人 ・コミュニケーション能力、スキルを使い自分の考えを持つと同時に他者の意見も柔軟に取り入れることができる人 ・常に新しいことに挑戦するフロンティア精神をもって社会で活躍しようとしている人 ・グローバルな思考で地域に主体的に参加するために必要な素養を心理学を通して身につけたい人 ・心理学を通して人々に笑顔を届けたいと考えている人 (2) 入試選抜について 心理学部心理学科では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、総合型選抜および大学入学共通テストを利用した試験等、多様な入試選抜を実施します。 (3) 入学前教育について 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、心理学部心理学科は入学予定	

者に課題を与え、その提出を求めます。もしくは、入学までに学習しておくべき項目を提示します。

学部等名 看護学部看護学科

教育研究上の目的 (公表方法：本学ウェブサイトに掲載)

<https://www.frontier-u.jp/intro-univ/>)

(看護学部)

生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観、幅広い教養、豊かな人間性並びに看護の現象・事象に的確に対応できる高度な専門的知識・技術、判断力を備えた看護職者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針 公表方法 本学ウェブサイトに掲載

<https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/>

(概要)

看護学部看護学科では、建学の精神である「人間性の涵養と実学の重視」を教育の基本理念とし、卒業に必要な単位数 124 単位を修得し、以下に掲げる能力を身に付けた学生に、学位を授与します。

(1) 人に寄り添う高い倫理観

生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観を持つことができる。

(2) 幅広い教養に基づく柔軟な思考力

幅広い教養を育むために、学問を探究し批判的思考力を持つことができる。

(3) 看護学を生涯学び続ける姿勢

看護の現象・事象に対応できる高度な専門的知識・技術を高める姿勢を持つことができる。

(4) 看護専門職としての高度な実践力

専門職としての的確な判断を行い、質の高い看護を提供する能力を持つことができる。

(5) 看護の視点から広く社会貢献する態度

グローバルな社会における看護の役割を広い視野で捉え、社会に貢献する態度を持つことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：本学ウェブサイトに掲載

<https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/>

(概要)

看護学部看護学科では、教育課程の編成の主要概念として、看護・人間・健康・社会・発達・環境の 6 つを掲げています。そして、【人間と看護】という総合的視点にたって、看護学の専門的知識と技術を深く学んだ人材を育成するための支援をおこないます。同時に、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、教育課程において以下のことを実施しています。

(1) 教育課程の編成

- ・教育課程を【基礎・教養科目】と【専門教育科目】からカリキュラムを構築しています。【基礎・教養科目】では、広い視野を持ち、多元的に物事を考え、新しい状況下でも的確に対応していく力のある学士を育成するために、幅広い知識を身につけていけるよう支援します。
- ・専門の現場における応用力や課題解決力を養うため、【専門教育科目】を「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基本」「看護実践の展開・応用」「看護学の統合」「保健師関係科目」といった科目群に分け、それぞれから卒業に必要な単位を修得するようにしています。
- ・初年次教育を重視し、1年生の必修科目に「基礎ゼミナールⅠ（スタディスキル）」、「基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）」を開講し、年間を通じて学習方法や、グループワークで自分の考えを主張する能力の修得を目指しています。

・看護学科の主要な6つの概念である看護・人間・健康・社会・発達・環境とそれらの関係性にもとづき、学修する内容の順序性、関係性を踏まえて教科目を配置しています。 ・自ら学び、考え、様々な状況に対応できる力を身につけられるよう、各科目では主体的な学びを推進しています。 (2) 学修方法・学修過程 ・学習時間を確保するため、年間の履修登録単位数の上限を49単位と定めています。また成績が優秀な学生には、追加での履修登録を認めています。 ・全学的に、アクティブラーニングによる授業に取り組んでいます。これにより、学生が能動的な学習の仕方を身に付けます。 ・保健師国家試験受験資格を取得したい学生は、2年次終了時にGPAや面談による評価により、3年次以降、保健師関連科目の履修を認められます。 (3) 成績・学修成果の評価 ・各科目の評価は、「定期試験（中間・期末）」「小テスト、授業内レポート」「宿題、授業外レポート」「授業態度・授業参加度」「プレゼンテーション」「グループワーク」「演習」「実習」の8つの評価項目のうち複数を組み合わせて、100点満点で総合評価します。 ・4年生の必修科目の中で、看護の総合的な知識・技術の確認・評価を行います。
入学者の受入れに関する方針 公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-policy/
(概要) 看護学部看護学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す内容を達成するために、以下に示す学生像を求め、入試選抜・入学前教育を実施します。 (1) 求める学生像 ・人々とのかかわりに関心を持ち、その人らしさを感じることができる人 ・自分の考えを持つと同時に他者の意見も柔軟に取り入れる人 ・新しいことにチャレンジし、自らの課題を見つけることができる人 ・地域と世界の重要性を、ローカルな視点とグローバルな思考で地域に主体的に参加していくことで認識することができる人 ・人々の健康に関心がある人 (2) 入試選抜について 看護学部看護学科では、求める学生像受け入れのため、教科の試験や高等学校からの推薦、総合型選抜および大学入学共通テストを利用した試験等、多様な入試選抜を実施します。 (3) 入学前教育およびプレースメントテスト・補習科目について 大学教育を受けるのに必要な基礎的能力の向上のため、看護学部看護学科は入学予定者に課題を与え、その提出を求めます。また、課題に愛して入学後にプレースメントテストを行い、必要に応じて補習科目の履修を勧めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
心理学部	－	3 人	3 人	3 人	0 人	0 人	9 人
看護学部	－	7 人	6 人	6 人	2 人	3 人	24 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		43 人					43 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ウェブサイトにて公表 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-teacher-all/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
F D研修会は、毎年、授業改善や管理・運営関係の内容を全学で実施している。 令和7年度は8月に全学FD・SDとして「宇部フロンティア大学・短期大学部における広報活動について理解する。大学入試を取り巻く現状を理解する。」を実施し、3月に全学FD・SDとして「アクティブラーニング実践報告及び学生調査集計結果の概要」の報告及び「大学教育における生成AIの授業での活用について」の講演を実施した。また、看護学部においても独自にFD研修会を実施した。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
心理学部	40 人	44 人	110%	260 人	144 人	55.4%	5 人	0 人
看護学部	50 人	45 人	90%	300 人	167 人	55.7%	5 人	1 人
合計	90 人	89 人	98.9%	560 人	311 人	55.5%	10 人	1 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
心理学部	42 人 (100%)	7 人 (16.7%)	27 人 (64.3%)	8 人 (19.0%)
看護学部	64 人 (100%)	2 人 (3.1%)	54 人 (84.4%)	8 人 (12.5%)
合計	106 人 (100%)	9 人 (8.5%)	81 人 (76.4%)	16 人 (15.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
看護学部（過去 3 年間）				
○看護師				
国公立大学法人附属病院、独立行政法人国立病院機構、県立、市立、公立病院、社会福祉法人恩賜財団済				

生会、独立行政法人地域医療機能推進機構、独立行政法人労働者健康安全機構、私立大学附属病院、医療法人などの病院 ・保健師 市・町職員 ・養護教諭 ○心理学部（過去３年間） 一般企業、福祉施設・社会福祉法人、医療法人、公務員 ・宇部フロンティア大学大学院
（備考）

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画については、ウェブサイトにはシラバスを掲載している。シラバスには、授業科目名、講義・演習等の授業形態及び授業概要・毎回の授業計画を掲載している。また、学年暦をウェブサイト上に公表している。 これらの公表は、以下の本学ウェブサイトにて行っている。 https://www.frontier-u.jp/student/g-syllabus-student/
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) シラバスに授業科目の評価項目ごとの評価基準と評価割合が明示されており、単位授与・履修認定はあらかじめ設定した成績評価の方法・基準により厳正かつ適正に実施している。 卒業に必要な単位数を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けた学生に卒業を認定し、学位の授与を行っている。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
心理学部	心理学科	124 単位	☒ 有・無	年間 48 単位
看護学部	看護学科	124 単位	☒ 有・無	年間 48 単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/student/g-result/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-public-info/a-info-education/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/campuslife/c-map-campus/
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
心理	心理	660,000 円	250,000 円	350,000 円	施設設備費、実験実習費
看護	看護	980,000 円	250,000 円	470,000 円	施設設備費、実験実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 給付型奨学金の採用候補者である入学者又はその他の入学者に対しては、指定する期日までに該当する書類を提出することで、授業料及び入学金を除く校納金の納入期限は、7月31日までとしている。入学金の納入は、入学許可の際には猶予し、入学後、減免適用後の入学金の納入がある場合は、7月31日までに納入する。また、授業料は、減免支援対象者として大学から認定されるまで納入を猶予し、減免適用後に授業料の納入がある場合は、7月31日までに納入する。 ① オフィスアワー オフィスアワーを設定し、学生が授業時間外に教員に質問ができるようにしている。 ② チューター制度 本学の教員は、チューターとして履修科目の選択、学修面などのアドバイスを適宜行っている。 ③ 障がいのある学生への支援 障がい等の理由で、修学支援を希望する場合は、学生支援室、学生課で相談し、支援を行っている。また、授業上の配慮を希望する学生には教務課で相談の上、支援計画を策定している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 学生一人ひとりに対して進路に対する「動機付け」を育成するために、入学時から診断テストや面接を中心とした支援システムを実施している。学年に応じ計画的に推進することにより、真に社会で求められる人材を育成するとともに、就職に対する在学生の満足度を向上させている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） ① 学生相談室 学生相談室に相談員として臨床心理士、公認心理師を配置し、主に精神面での相談を行っている。 ② ハラスメント対応窓口 ハラスメントの相談ができるよう、ウェブサイトやガイドブックに相談窓口の電話番号、メールアドレスを公開し、学生に周知している。 ③ 保健室 保健室において、学生の健康相談や定期健康診断の事後指導等を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ウェブサイトに掲載 https://www.frontier-u.jp/intro-univ/a-public-info/a-info-education/ 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F135310110130
学校名（〇〇大学 等）	宇部フロンティア大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 香川学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		85人（ 44 ）人	79人（ 37 ）人	89人（ 46 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	31人	31人	
	（うち多子世帯）	（－）	（－）	
	第Ⅱ区分	14人	13人	
	（うち多子世帯）	（－）	（－）	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（－）	（－）	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	21人	20人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				89人（ 46 ）人
（備考）				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。